

事業所名	グループホーム 愛
日付	平成20年6月13日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
	評価調査員 介護支援専門員・介護福祉士 訪問介護員
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

## 1. 評価結果の概要

<p><b>講評</b></p> <p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建物内の広い共有スペースは開放感があり室温管理がされている。200坪の広い庭園は四季折々の花や野菜を植えて車いすで散歩や水撒きが出来るように整備されている。</li> <li>拘束、束縛の無い暖かい介護を目指して家庭的な雰囲気の中で入居者のペースに合わせた支援が行われており、入居者の豊かな表情が見られました。</li> <li>代表者は職員と協働で入居者同士・入居者と職員の馴染みの関係づくりを大切にしており、コミュニケーションの良さが感じられました。</li> <li>防災への意識が高く消防団の経験を活かした避難訓練と初期消火など消火訓練も含め定期的を実施しており、消火設備も整っている。</li> </ul>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>(記述)</p> <p>特に改善というのではなく、これからは福祉情報を取り入れながらケアサービスの向上に努められてらよいと思います。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活」「常に入居者の立場になり拘束と束縛のない心の通った支援」「共に喜び合える暖かい介護」を目指し、入居者の個性を大切にされた支援がされている。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>入居者一人ひとりの生活スタイルに添ったケアで、その人らしい日常が送れるようにその時々に応じた対応を心掛けている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>生活歴や家族からの意見や要望・情報交換を大切にしながら出来る事への支援と、日々の生活でプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>経験や研修で得た知識をお互いに伝承して全職員が同じレベルで介護にあたれるように努め、技術や情報の共有と協働に取り組んでいる。また問題発生時には素早い対応と状況を記録し再発防止に努めている。</p>		